

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第6回） 議事要旨

日時：平成20年7月18日（金）16:00～17:30

場所：内閣府本府庁舎政策評価審議官室

議事：平成19年度政策評価書案等について

出席者（懇談会メンバー）

座長 山谷清志 同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科教授

田辺国昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授

南島和久 神戸学院大学法学部准教授

<懇談会で出された主な意見>

（平成19年度政策評価書案について：総論）

- 国民にとって分かりやすい評価書にすることが必要。
- 今年度の評価書に対する総括評価を政策評価広報課で作成し、各部局が作成した評価書の前あるいは後ろに添付するようにはどうか。できれば、政策評価広報課の総括評価とそれに対する各部局の回答を一緒に記載するというふうにはどうか。
- 評価書全体のダイジェスト版を添付してはどうか。
- 短期的・具体的な政策効果、アウトカムの状況を確認できるようにするべき。
- 必要性の評価欄に記述しておくことが望ましい項目は、制度の変遷経緯、根拠法、内閣府が当該施策を実施する理由、主張すべき当該施策の価値や内容、施策に含まれる重要な価値とは何か、公的機関が施策を実施する根拠、当該施策を怠った場合の社会的リスクなどである。
- 有効性の記述では、まず実績としてどういったことを実施したのかを記述する必要がある。予算の増額措置があるものは、増額措置によりどういった点において施策の充実に図ることができたのかを書くことよいか。
- 施策の背景として基本計画や振興計画などの計画が存在している場合、最終ゴールに向けた進捗状況を記述する必要があるのではないか。特に実績評価方式の評価書ではこの点をしっかり記述することが重要。
- 政策の性質から勘案して、評価項目に掲げている必要性、有効性、効率性等の記述項目のうちから重点記述項目をつくってもよいか。
- コンパクトな評価書にするために、事業概要は政策全体の評価のうち事業概要欄で記述することとし、個別の関連事業の事業概要欄ではあまり厚く書かないようにはどうか。
- 評価書に記載している事業については、何ヵ年の事業なのか、或いは単年度の事業なのかを記載してもらうほうがよい。

（平成19年度政策評価書案について：各論）

- 今後の動きが注目される政策分野については、今後の取組方針をできるかぎり書いてもらったほうがよい。
- 簡潔過ぎる評価書については、もう少し裾野を広げて書いてもらう。

以上